

エレファントマンから4年—「真実」は常に新鮮なドラマを生む!

MASK

マスク

今、この感動に世界は涙する…



カンヌ映画祭参加作品
東京国際映画祭参加作品
カンヌ映画祭主演女優賞受賞／シェール



シェール／サム・エリオット／エリック・ストレッジ
エステル・ゲティ／リチャード・ダイサート／ローラ・ダーン
監督ピーター・ボクダ／ピッチ
製作アーヴィング・カーラー
脚本アナ・ハルドン・フラン
◆ロッキー／デニスの実話に基づく◆
撮影ラズロ・コバックス
カラー作品／ユニヴァーサル映画 ■ UIP配給

こんな美しい話が、本当にあった。

ゴムマスクをかぶったような顔。2200万人に一人といふ“ライオン病”
にも負けず、16年の生涯を爽やかに生きたロッキー・テレス少年！

心のマスクははがしちゃうから。



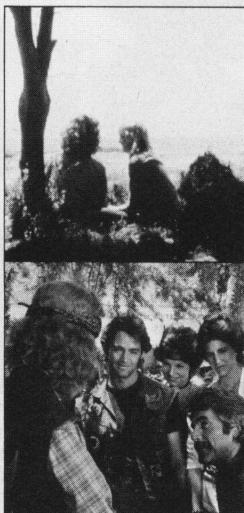
THE RIDER

1964年—1980年。わずか16歳で生涯を閉じたロツキー・デニス少年のこれは本当の物語。



ユニヴァーサル映画 CIC配給

マスク



●スタッフ

監督 ピーター・ボグダノビッチ
製作 マーチン・スター^ガ
脚本 アンナ・ハミルトン・フェラン
(ロッキー・デニスの実話に基づく)
共同製作 ハワード・アルストン
製作補 ジョージ・モーホ根
撮影 ベギー・ロバートソン
ラズロ・コバックス

●キャスト

ラスティ・デニス シェール
ガ サム・エリオット
ロッキー・デニス エリック・ストルツ
イブリン エステル・ゲティ
エーブ リチャード・ダイサート
ダイアナ ローラ・ダーン
ベーブ ミコール・マー・キュリオ
レッド ハリー・ケリー・ジュニア

ぶつっているように見えるのです。でもそれが彼のありのままの「顔」なのでした。
実在の人間をモデルにしたこの映画「マスク」は非常に特殊な人生を克服した少年ロツキー・デニスの感動の物語です。

ロツキーの美しくも短かい人生に登場した人々は、そんな彼をまったく特別扱いしませんでした。まったく普通の少年と接つするごとく振舞つたのです。ごくごく自然に……

母親は世の中の慣習にとらわれない人生を送るタフな「バイク・レディ」でした。ドラッグと男に明け暮れる日々でした。そんな母親をロツキーがさとすのです。体によくないよと。自分自身の体の方がよほど危険な状態

した。彼の部屋にはビートルズやブルース・スプリングスティーンのポスターやハーレー・ダビッドソンの写真、それにヨーロッパ全土の地図や彼が愛したブルックリン時代のドジャースの名選手たちのブロマイドが壁中に貼られていました。

映画は15才のロツキーがシニア・ハイスクールを卒業する間近な日から始まります。カメラが屋外から彼の部屋をとらえます。カセット・ラジオから響き渡るロツクンロールのリズムに体を合わせてシャツを着て、鏡に写る自分の姿を点検している様子は、典型的なアメリカン・ティーンエイジャーの姿です。でも振り向いたその顔は、私達がかつて見たこともない顔なのです。彼の目は、普通の2倍もある顔の上で極端に広がっています。鼻には鼻柱がありません。一見すると奇妙な「マスク」をか

上ですが、ロツキーを心から愛し、彼の友だちであり彼の父親でもあるのでした。シニア・ハイスクールの卒業式の日、優等生として壇上に呼ばれ賞状を貰うロツキーは、そんな彼らの希望であり誇りでした。自分達がなしえなかつた夢をロツキーに見出すごとく式に参列した彼らは狂喜乱舞するのです。口の不自由なメンバーの中の一人の大男が懸命にロツキーにしゃべりかけます。「僕はとつてもうれしい」と。たったこれだけの言葉を表現するのも大男にとっては大変な努力が必要だったのであります。ましてここ数年間、人に向かつて言葉なんか発したことなかつた男だったのに。

ある日サマー・キャンプに参加したロツキーは、そこで盲目の美少女と出逢います。そして愛が芽生えます。ロツキーの初恋です。お互いのハンディキャップを乗りこえてロツキーと少女は素晴らしい純粋な愛の世界を築き上げるのです。

ロツキーは普通なら回りの人々から同情され庇護され、分知り顔の大人から特殊な環境下での生活を強いるされたかもしれません。ロツキーの周囲の人々はそうしませんでした。そうしなかつた代りに、彼らは逆にロツキーから愛と勇気を与えられたのです。ロツキーは16才で短かい生涯を閉じました。

監督は「ペーパームーン」や「ニッケル・オデオン」等でハリウッドの若手監督を代表する名匠ピーターボグダノビッチ。脚本はこれが処女作で、自分自身が遺伝学カウンセリングを職業とする経験を持つ女流作家アンナ・ハミルトン・フェラン。実際のロツキーと出逢った体験を下に脚本を書き下しました。

主演はロツキー・デニス少年にTV界で活躍しているエリック・ストルツ。最初から最後までメイキャップしたままの出演ですが、映画では初の大役でした。母親役のシェールは、かつて「ソニーとシェール」の名前で大活躍した音楽界のスーパースター。女優に転向してわずか3年しかたちませんが、ブロードウェイでたちまち頭角を現し、映画でもゴールデン・グローブ賞、アカデミー賞の助演女優賞にそれぞれ既にノミネートされるほど

6月22日より涙と感動のロードショー! ※特別鑑賞券(一般¥1200・学生¥1100)発売中!

ヒビキ座
(591)5357

新宿ビレッジ2
(351)3129

新宿オスカー
(202)0141

渋谷文化
(461)4902

横浜東宝エルム
045(681)7410